



泌尿器科・内科
田谷 泌尿器科 医院
 小松市園町二29番地
 ☎(0761)23-0888

アザマルあいづ
 いしかわ動物園



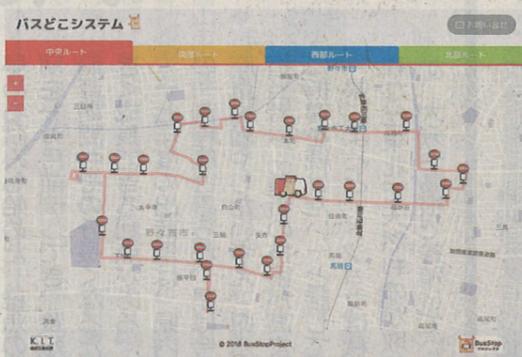
白いけどクロトキ
 水鳥たちの池で目を引くのがクロトキです。日本でも少数が見られるトキの仲間。白い体に黒い頭が特徴です。「シロトキじゃないの」と時にお客さまから質問があまり

「のっティ」一目でココ



位置把握システム

野々市の金沢工業大の学生プロジェクト「Busstoプロジェクト」が、市コミュニティバス「のっティ」の位置をスマートフォンなどで把握できる「バスどこシステム」を開発した。システムを取り入れたバス停型端末も試作。十六日に市役所正面玄関前に端末を設置し、利用した通行人らに感想などを聞くアンケートを始めた。(富田章牛)



システムは、のっティに設置した衛星利用測位システム(GPS)機器を使い、北部、西部、中央、南部の計四ルートの位置情報をバス型のアイコンで表示。渋滞などで時刻表通りに来ないバスの位置情報を確認できれば便利と考え、

⑤端末の仕組みなどを通行人に説明する学生⑥野々市市役所で⑦バスの位置情報を表示した画面

野々市市役所に端末、アンケート実施

同プロジェクトが一月から開発を進め、五月から市と実用化に向けた検証を行っている。

この日は一、四年生九人が参加。来庁者や通行人に端末の仕組みや使い方を紹介し、アンケートに記入してもらった。「ひと目でバスの位置が分かり、便利だと思った」という感想のほか、「運転免許証を返納した高齢者の多くがバスを利用するので、分かりやすい表示してほしい」といった声が寄せられた。

アンケートは十八日まで行つ。リーダーを務める情報工学科四年の平松瞭太郎さん(三)は「アンケートを参考に改良を進めていきたい。のっティの利用者増に少しでも貢献できれば」と話している。

一般廃棄物 最終処分場が完成

白山市と野々市市、川北町でつくる白山野々市広域事務組合が建設していた一般廃棄物最終処分場「環境の杜おがわ」が完成し、十六日に白山市小川町の現地で式があった。約六千七百平方メートルの建物内に、ガラスや陶磁器のくずといった不燃物残さを埋め立て処理する。

埋め立てた不燃物残さに散水し、交じっている有機物を微生物の活動によって分解。水は施設で処理し、再利用する。施設の埋め立て容量は約二万八千立方メートルで、約二十年利用する。敷地(約五万一千平方メートル)内

白山野々市事務組合 式典

にはこのほか第二期(約二十年)、第三期(約十年)の埋め立て予定地がある。総事業費は約三十四億円。白山、野々市両市から出る不燃物残さは年間約八百九十九ト。鶴来清掃センターで最終処分していたが、使用期限になったため二〇一五年三月に終了。以降、焼却灰はセメント会社、不燃物残さは県外の埋め立て処分場に最終処分を依頼していた。

式には三市町の関係者ら約七十人が出席。組合長の山田憲昭・白山市長が「地域の環境保全とともに、廃棄物の減量化、資源化といった循環型の社会づくりを進めていきたい」とあいさつ。副組合長の栗貴章・野々市市長、前哲雄・川北町長らとテープカットした。(鴨宮隆史)



埋め立てエリアを見学する出席者ら
 テープカットをする山田憲昭組合長
 中央いすれも白山市小川町で

柳町の土地区画整理 完工祝い記念碑除幕

野々市市柳町土地区画整理事業の完工記念碑の除幕式が十六日、同町内の公園で開かれ、地権者ら約六十人が出席した。

事業は二〇一四年度、柳町の一部約八・九畝を対象に始まり、総事業費は約十四億九千万円。対象地区には金沢外環状道路(海側幹線)があり、近くには国

記念碑の除幕をした北川清春理事長(右から3人目)、栗貴章市長(同2人目)ら野々市市柳町で

道8号が通る交通の要衝だ。一五年八月には米国発祥の大型会員制倉庫店「コストコ」がオープンした。

式典では、北川清春理事長や来賓の栗貴章市長らが記念碑を除幕した。北川理事長は「皆さんの協力のおかげで完工することができた」とあいさつした。(富田章牛)



(富田章牛)

開花、散った日 記録したよ!

白山「蝶屋っ子さくら探検隊」解散



白山市蝶屋地区の桜の花を観察する「蝶屋っ子さくら探検隊」の解散式が十六日、同市蝶屋小学校であった。今年で十年目で、同校一

六年生四十二人で三月に結成。児童たちは春休みなどに担当地区にある桜の開花や満開になった日、花が散った日を記録した。市蝶屋公民館によると、地区には地元の人たちが植えたソメイヨシノやヤエザクラ、河津桜など約八百五十本がある。

式では、児童を代表して六年の山田祐希さん(二)と北瀬葵さん(二)が桜の形をした紙に今年の開花日を記入し、これまでの記録をまとめた「桜木」に貼り付けた。

同館の梨木精一館長は「地区にある美しい桜の花を大きくなくても忘れず、見守って」と話した。(鴨宮隆史)

IoT、

加賀に「ルー入居2社市加賀市は四日(モノのインタや人工知能(AI)した事業の立ちする「インキュルーム」を、同間道の市イノベーター(かが交くら三階)に開居した二社の代表所を訪れ、宮意込みを語つ

小松市向本折生四十六人が十にあるビニールでトマトの苗を向本折小のビニールは老朽化に加が開き、八日市青壮年部苗代ウス用のビニール受けたばかり。

小松市向本折生四十六人が十にあるビニールでトマトの苗を向本折小のビニールは老朽化に加が開き、八日市青壮年部苗代ウス用のビニール受けたばかり。

小松市向本折生四十六人が十にあるビニールでトマトの苗を向本折小のビニールは老朽化に加が開き、八日市青壮年部苗代ウス用のビニール受けたばかり。



宮内陸市長官に事業するインキュベーション入居者ら加賀市

ほくわた



からです。困て笑顔にした

児童がトマト

小松